

「第2回アドバイザー会議」における質問内容及び回答内容

調書番号:8 事業名:農産物流通販売強化対策事業費補助金

アドバイザー	質問内容	説明者職・氏名	回答内容
小澤アドバイザー	岡山と山梨のシャインマスカットの価格が違うが、なぜか。	室長 齊藤武彦	岡山は昔から、マスカット・オブ・アレキサンドリアの栽培ではノウハウを持っており、シャインマスカットが出始めた時点からマスカットのブランド力は際立っている。山梨県も負けずに頑張っているところ。
小澤アドバイザー	インフォメーションセンターの活動実績はデパートが多いのはなぜか。	室長 齊藤武彦	高級なものをいい値段でしっかり売っていくというポリシーを持っており、デパートや高級果実専門店でのPRが不可欠。
小澤アドバイザー	資料8ページで、農業団体のみが事務所を設置している都道府県の中に山梨県がないが、販路を確保するために事務所を設置する考えはあるか。	室長 齊藤武彦	山梨県では、農業団体と共同して設置している。
小澤アドバイザー	JAに未加入で個人的に販売している農家について、市場価格より低い価格で売っているのか、高い価格で売っているのか。価格について県は指示しているのか。	室長 齊藤武彦	民間対民間の商取引であるため、県は価格について言及しない。JAを通しての販売と個人による直接販売はそれぞれメリット・デメリットがある。価格は、出荷量や品質を勘案して、市場で決まると聞いている。

アドバイザー	質問内容	説明者職・氏名	回答内容
村上アドバイザー	色々な活動を行っている印象。このような農産物の事業は専門知識がないとできないと思うが、インフォメーションセンターの県職員2人は、今回の農産物流通販売対策事業の他の事業に関わっているのか。	室長 齊藤武彦	県職員2名は農業技術職。JA全農やまなしから派遣されている2名のうち1人は農業技術系、1人は事務系。4人ともインフォメーションセンター専属。
村上アドバイザー	県の職員2人の農業関係の職歴は長いのか。	室長 齊藤武彦	採用されてからずっと農業関係に携わっている。
村上アドバイザー	資料7ページの使用料及び賃借料について、R元年度当初予算額と追加資料1ページのH30年度実績額を比較すると、100万円くらい増加しているが、その理由は。	室長 齊藤武彦	R元年度当初予算額には複合機のリース料やNHKの受信料などが含まれている。
村上アドバイザー	年間に沢山の行事を企画している中で、最も重要なことは何か。	室長 齊藤武彦	基本業務のうち、大田市場での情報収集が最も重要な業務。また、首都圏を中心とした販促活動も大事と考えている。山梨の果物は既に知名度は高いと認識しているが、他県産も強力なライバルであるため、インフォメーションセンターを中心に、農協と連携しながら日々デパート、有名果実専門店、街頭、市場でのPR活動によりブランド力を向上させることが肝要。
小口アドバイザー	色々な活動が行われているが、県職員とJA全農やまなしの職員で業務の棲み分けはあるのか。	室長 齊藤武彦	細かいところではあると思うが、基本的にはスクラムを組んでやっている。JA全農やまなしの事務系職員は内部管理をしているが、市場での情報収集や、PR活動などは技術系の職員が行っている。

アドバイザー	質問内容	説明者職・氏名	回答内容
小roadアドバイザー	販促活動に力を入れていると言うことだが、PR先は増えてきているのか。	室長 齊藤武彦	新たな取り扱い、販促活動を出来る場所の開拓などもインフォメーションセンターの極めて重要な役割。日々の情報収集と併せて、足繁く通うことで開拓している。
小roadアドバイザー	市場流通メモやイベントの状況のまとめについてはルールに従って定期的に行っているのか。	室長 齊藤武彦	職員の裁量にまかせているが、重要な案件をピックアップしてやっている。
小roadアドバイザー	イベントは客の反応がよく把握できるので大事だと思うが、市場流通メモは年間何回発行しているのか。	室長 齊藤武彦	果物シーズンを中心に発行しているが、去年は年間12回発行。少しでも多く発行できるように職員とも調整してやっていきたい。
小roadアドバイザー	市況情報と同じような形で配布されているのか。	室長 齊藤武彦	メールで送っている。
小roadアドバイザー	一方的に送っているのか。どこかで報告会をするといったことはあるか。	室長 齊藤武彦	果物の出荷時期を中心に、県内のJAやJA全農やまなしなどが上京した際に意見交換する場がある。同様に地元でインフォメーションセンター職員がJAや生産者と意見交換する場もある。
小roadアドバイザー	一般的にはJAに出向いて、生産者と話をするという形になると思うが、そうすると系統外の生産者については、農務事務所を通じての発信ということか。	室長 齊藤武彦	系統外の生産者が販売・輸出支援室に訪れることもあり、情報交換する場面は多々ある。また、生産者が直接農務事務所に出向いて情報収集する場面もある。そういった意味ではJAを介さずに意見交換は出来ている。

アドバイザー	質問内容	説明者職・氏名	回答内容
小ロアドバイザー	JAと共同で事務所を設置しているところが9県ということだが、別で設置している県は、どのような理由でそのような状況にあると考えているか。	室長 齊藤武彦	別で設置している県では、職員の配置は、県関係は都道府県会館、JAは現場の大田市場と役割分担の中でやっていると考えられる。山梨県は大田市場に事務所があるが、一方で都道府県会館の東京事務所にも農務関係を担当する職員がいるので、連携する中で首都圏に向けたPRをしている。
小ロアドバイザー	事前に質問はしていないが、他県で県とJAが共同で事務所を設置しているところは、山梨県と同じような予算形態でやっているのか。	室長 齊藤武彦	どのような予算形態でやっているのか、調べて報告する。
小ロアドバイザー	年間目標の中で、販売促進支援や情報収集提供回数があるなかで、トピックスの発信や新規開拓数などの数値目標はあるか。	室長 齊藤武彦	数値目標を設定することはなかなか難しいところであるが、将来的には視野に入れながら、鋭意努力していく。市場競争が激化している中で、しっかり新規開拓していきたい。
小澤アドバイザー	新宿高野のようなところで料理教室を開催しているが、JAと一緒にやっているのか。	室長 齊藤武彦	JAと一緒にやっているものもあるし、小売店が主催するものに協力しているものもある。
小澤アドバイザー	もっと積極的に小規模な個人のレストランといったところでもやっていくようなことは考えないか。	室長 齊藤武彦	高級店以外にも小規模なレストランでのPRも有意義であると考えため、農協団体と相談して進めていきたい。
村上アドバイザー	関西の事務所の設置状況は。	室長 齊藤武彦	山梨県の大阪事務所には農業職の職員が1名いる。関西、名古屋の市場での情報収集をしている。扱う量が東京に比べて少ないので、頻度は少ないが、情報収集して現場にフィードバックしている。